

第35回 10Rクラス選手権大会 参戦記

記 J-683 池田 成利

コロナで我慢が続き3年ぶりに 皆が集うレースが開催されました。

久々のレースはカンカン照りの晴天となり灼熱の中のスタートとなりました。同時開催されたJFクラスと併せて コロナ対策と併せて 熱中症への配慮がなされ 通常5分間隔での運営が10分の間隔に拡大され 各選手の体調を確認されながらスタートとなりました。実に暑い11ヒート2日間となりました。私も 近年空調服着用で暑さを凌いでいますがこの服が ファンで外気を服内に吸気し 服内を循環した後 袖口、襟首から排出する構造となっており 絶えず襟首から顔へ風が吹いている状態となってしまう事になります。それでも 頭部から汗が吹き出し 1日でタオルが絞れる程の発汗でした。

今回開催されました10R艇は同時開催のJFクラス同様、建造に自由度の高いクラスで実艇などに適応されることの多いレーティング(評定指数)に基づき設計建造(JFクラスはレーティングではなく別に建造規則があります。)され 実に面白い艇の一つであると思います。ヨットは エンジンにあたるセールが大きいほどパワーがあり 水線長(全長)が長いほど水の抵抗は少ないとされています。全長、セール面積を計算式に入れ 解が10未満(レーティングが10=10R)になる様に設計する必要がありこれで性能を均一にする思考が必要となります。水線長を長くすればセールが小さく、セールを大きくすれば水線長を短くが簡単な概要になります。過去、10R専用設計艇が多く出艇していた頃は バウ、スターンに大きなオーバーハングを持つ船型(水線長が短く、セールが大きい)が主流でしたが これは風が上がりヒールすれば全長が着水し水線長を伸ばせる可能性が大きく 対波浪にも強くなります。逆に近年主流になっているのが RMクラスのハルに10RのAリグを上げるスタイルが目立ってきました。波の無い平水では 艇が軽く出来、セールパワーを上げる事が出来、ヒールの少ない弱風にポイントを合わせた艇が増えました。リグも対応風速に幅を持てるコンベンションリグよりフリーでもスロットル効果が安定しているスイングリグ一択に偏っての選択になっている様です。私も、RMクラスのハルに10RのAリグをスイングリグ方式でセットしました。

いずれにせよ 日本最大のクラスで 走りはとても優雅で 実艇でディンギーに乗られている方はもとより 大型クルーザーレーサーに乗られていた方には是非 乗って頂きたい艇種です。セールパワーも大きく微風でもよく走ります。

レースは かなりの近接戦で 全11ヒート中 エントリーの過半数がトップフィニッシュする 誰が勝ってもおかしくない展開で 僅差のヒートが続きました。1ヒート目はさすがの微風で 純10Rの池島艇が厳しい状況でしたが少し風の上がった3ヒートではしかりトップフィニッシュ。西日本でトップセラーの宗助艇もスコアが安定せず5ヒートまでトップが取れない展開と白熱のレースが続きました。初日のスコアは上位4艇が11ポイント差と何か起これば 逆転の範囲内です。全員が5位以下を経験するなど乱高下で先が読めない展開です。スタートで飛び出し、上マークをトップで回航しても サイド

マークまでに逆転され、下マークでは 6 艇が横一線でルームに入るなどまさしく白熱のレースが繰り広げられました。しかしながら そんな近接戦でありながら 一切ケースが発生せず、プロテスト（抗議）の声も上がらない。実に美しく隊列をなして回航して行く姿は乗っているより 観ている方が楽しめるのではないかと思うほどスムーズな運びでした。これは素晴らしい結果と思います。 2 日間、11 ヒートでプロテスト委員会は開催されな
いまま終了となりました。 決着がついたのは 2 日目のお昼前、10 ヒート、11 ヒート（最終ヒート）でした。 実に面白い 2 日間でした。

とても暑い中、運営をしてくださったボランティアの皆さま、フリートの皆さま本当に有難う御座いました。 とてもスムーズで配慮の行き届いた運営に感謝します。

J-683 池田 成利